

ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 兒崎 友美

■使用テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編集）
「最新・社会福祉士養成講座第12巻 ソーシャルワークの理論と方法」中央法規出版

◆参考テキスト

福祉臨床シリーズ編集委員会編「新・社会福祉士シリーズ8 ソーシャルワークの理論と方法」弘文堂

講義概要・一般目標

本講座では、「ソーシャルワークの基盤と専門職」で学んだ基礎的な項目を基に、実践で求められる基礎的な知識（主に、ソーシャルワーク実践で活用する実践モデルやアプローチ、面接、記録、ケース・集団・地域を対象にしたソーシャルワーク実践など）を習得できることを目的に課題を提示します。

本講座受講生は、能動的に自らがソーシャルワーカーの立場として課題に取り組むことを期待します。テキストを丁寧に繰り返し読むことで知識として定着し、さらにソーシャルワーク演習やソーシャルワーク実習を通して実践、ふりかえることで技術として身につきます。まずは基礎的な知識の修得を目指しましょう。

課題の提示の方法としては、基礎的な項目に対する知識の点検と事例を基にどのような援助計画や実践を提示していくかということを問う内容を提示していきます。

さらに、制度・政策的な流れについても理解を深め、ソーシャルワーク展開の分野についての特徴についても合わせて理解を深めて下さい。

到達目標

- 1) 本講座では、相談援助の基礎的なことを再度確認することで、ソーシャルワーカーにとって「相談援助」の展開過程を説明できる。(DP：①、④)
- 2) 他の専門職が行う「相談」と何がどう違うのかを理解し、その特徴についても合わせて説明できる。(DP：①、④)
- 3) ソーシャルワーク実践に必要なモデルやアプローチ、面接、記録などについて説明できる。(DP：①、④)

実務経験のある教員による教育

科目担当（兒崎）は、福祉現場である特別養護老人ホームに3年、地域包括支援センターに13年という期間、社会福祉士として実務経験を担ってきた。このような実務経験に基づき、実践に必要な相談援助の理論と方法についての知識を修得することを目的に添削指導を行う。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ

この章ポイント

本章では、ソーシャルワークの「実践モデルとアプローチ」を学ぶことが目的である。まずは、実践モデルやアプローチの意味を理解したうえで、認知、危機介入、エンパワメント、ナラティブ、解決志向といったアプローチが誕生した背景やそれぞれの特徴を知識として定着させる。そのためには実践（現場）でこれらの視点や視座、モデルやアプローチを活用できることを意識して取り組む。

第8章 ソーシャルワークの面接

この章ポイント

ソーシャルワーク面接は、ソーシャルワークの全過程において「基本」となる。よってソーシャルワーク面接の意義や目的を理解し、面接の形態や手段、面接が行われる場所の多様性や構造、面接を実施する際の基本的な留意点について学ぶことを目的とする。また、非言語的・言語的双方の側面から、面接の基本的技法について把握し、知識として定着させることを期待する。

第9章 ソーシャルワークの記録

この章ポイント

本章では、ソーシャルワーク記録の意義と目的について学ぶ。また、記録の目的に合わせた「求められる内容」と「好ましくない内容」を把握し、記録の種類やフォーマットなどを活用しながらソーシャルワーカーとして求められる記録とは何かを学んでいく。

第10章 ケアマネジメント（ケースマネジメント）

この章ポイント

本章では、ケアマネジメント（ケースマネジメント）の歴史を整理する。そして、ケアマネジメントの意義や方法、ソーシャルワーカーが習得すべき手法の一つとしてのケアマネジメント（介護保険制度のではない）の本来の意義やモデル、プロセスについて学ぶ。

第11章 グループを活用した支援

この章ポイント

本章では、グループワークについての意義や目的を学ぶとともに、ジェネラリスト実践の視点からいくつかのタイプを学ぶ。そして、グループワーク展開のプロセスやセルフヘルプグループについて事例等に落とし込みながら理解して欲しい。

第12章 コミュニティワーク

この章ポイント

本章では、住民が主体となって地域の問題を解決する力を高める意義と、その方法としてのコミュニティワークを学ぶ。具体的には、実践を支える理論や歴史的流れを理解し、コミュニティワークの展開として、地域アセスメントと計画策定、地域組織化、地域開発、そして評価と実施計画の見直しについて学ぶ。

第13章 ソーシャルアドミニストレーション

この章ポイント

本章では、間接的支援の実践方法としてのソーシャルアドミニストレーションの概念と意義について学ぶ。その上で組織介入・組織改善の実践モデル、組織を運営するための財源の種類や財源確保の方法について学ぶ。

第14章 ソーシャルアクション

この章ポイント

本章では、定義や特徴、展開過程を学ぶ。また、ソーシャルワークにおけるソーシャルアクションの意義を理解していく。そして、コミュニティ・オーガナイズの考え方や技術、展開過程についても学ぶ。

第 15 章 スーパービジョンとコンサルテーション

この章ポイント

本章では、スーパービジョンとコンサルテーションの意義や目的、方法について学ぶ。ソーシャルワーカーの仕事は、資格を取得したらすぐにできるものではない。様々な状況に対応できるように学び続ける必要があり、専門性を向上させ、よりよいサービスを提供できるようにする技術を学んで欲しい。